

I 研究成果の紹介（第2回）

平成25年度の試験研究主要成果（普及）について紹介します。詳しい内容は、農業研究所ホームページにも掲載してあります。ぜひご覧になって下さい。

★六条大麦「カシマゴール」の出芽期、莖立ち期、出穂期、成熟期予測法

麦類の高品質安定生産には、生育ステージに応じた適正な栽培管理が重要となります。そこで、麦茶用六条大麦「カシマゴール」について、除草剤の散布目安になる出芽期、麦踏みの晩限で追肥時期でもある莖立ち期、追肥および赤かび病の防除時期判定に必要な出穂期、適期収穫の目安になる成熟期を予測する技術を開発しました。

出芽期は播種後の積算気温で105.8℃、莖立ち期（主稈長が2cmになった時期）は出芽期からの積算気温で556.3℃となる日です。また、主稈や幼穂は主に気温によって伸長しますので（図1）、主稈長や主稈幼穂長を測定し、莖立ち期や出穂期までに必要な残りの積算気温を計算することで高精度で予測することができます。さらに、成熟期は出穂期後の積算気温で720.2℃、出穂期後日数では44日となる日です（図2）。

積算気温による簡易な予測は、最寄りのアメダスデータから0℃以上となる日平均気温を積算して予測します。また、主稈長や主稈幼穂長を用いた精密な予測は、表計算ソフトを用いることができますので、「莖立ち期予測用」、「出穂期予測用」の専用ファイルを農業研究所ホームページからダウンロードしてご活用ください。

なお、栽培場所がアメダス観測場所から遠い、極端な早播きや晩播、湿害等により生育に異常が認められる場合には、予測精度が劣る可能性がありますのでご注意ください。

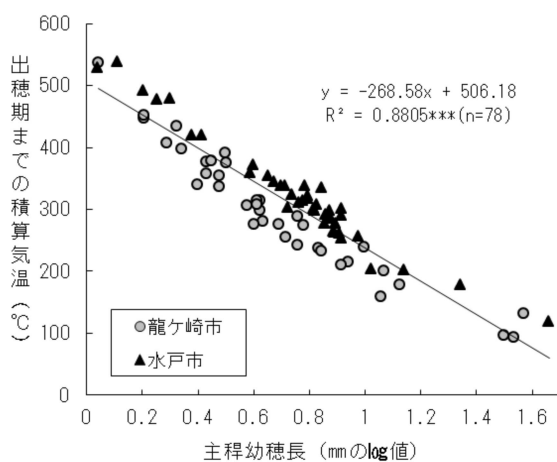


図1 主稈幼穂長と出穂期までの積算気温の関係

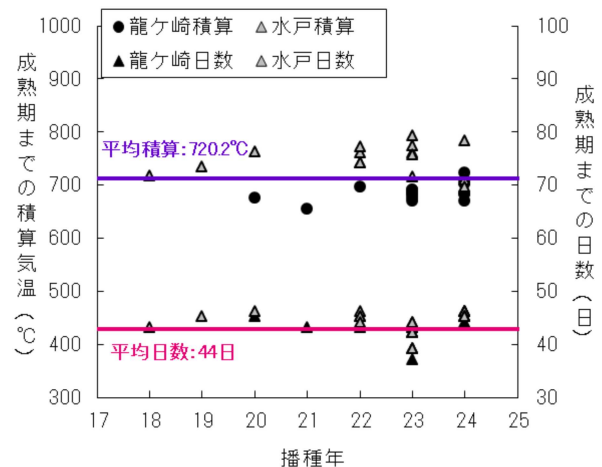


図2 出穂期から成熟期までの積算気温・日数

Ⅱ 水稻新品種「一番星」、**「ふくまる」**及び**水稻鉄コーティング直播栽培**をテーマに、**第2回主要課題現地検討会**を開催

7月28日に水田利用研究室（龍ヶ崎市）において、水稻新品種「一番星」の安定多収栽培技術、「ふくまる」の全量基肥施肥技術及び水稻鉄コーティング直播栽培に関する試験を中心に、第2回主要課題現地検討会を開催しました。生産農家、JA及び関係機関等の職員ら70名の方に参加頂きました。

◆検討内容

○「一番星」の安定多収栽培技術について

「一番星」の極早期収穫技術に関する試験、多収・良質米栽培に関する試験について検討を行いました。参加者からは、「今年は特裁に取り組んでおり付加価値を付けて販売する」「縞葉枯病の発病を調査したところ、一番星には発生が見られなかった」など、産地の活性化や一番星の特徴を生かした栽培を行っているといった報告がありました。



○「ふくまる」の全量基肥施肥技術について

H25年の試験結果とH26年の生育調査結果を基に「ふくまる」に適した全量基肥肥料の検討を行いました。新肥料タイプ2(L70日(42%)+S80日(30%))は、慣行一発肥料(らくしょう君)と同様、莖数を確保し、高収量が期待できると報告がありました。参加者からは、「白未熟粒発生対策として後半重視の一発肥料試験は重要で新肥料2はその抑制の可能性があるのではないか」、「基肥を何kgに設定することが重要でコシヒカリプラス何kgが目安になるのでは」との多くの意見が寄せられました。

○水稻鉄コーティング直播栽培に関する試験

鉄コーティング直播栽培のポイント、「ふくまる」鉄コーティング直播栽培の作期分散モデル例について検討を行いました。作期分散モデルでは、「移植ふくまる」と「移植コシヒカリ」の収穫期間に「直播ふくまる」が入ることで経営面積拡大が期待できることを報告しました。

作物の生育情報はこちらから

農業研究所では、水稻、麦類、大豆、かんしょ、落花生の生育情報をホームページ上で提供しています。

ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/nourin/noken/>

編集・発行／茨城県農業総合センター農業研究所
〒311-4203 水戸市上国井町3402
TEL029-239-7211(代) FAX 029-239-7306
水田利用研究室
〒301-0816 龍ヶ崎市大徳町3974
TEL 0297-62-0206 FAX 0297-64-0667
Mail nouken@agri.pref.ibaraki.jp
URL <http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/nourin/noken/>